

行事／取組名称	ジュニア・チャレンジ in 仙台		
担当者	吉澤雅幸		
開催日時・期間	2025年7月20日(日) 9:00～16:00	会場	東北大学川内キャンパス
主催	NPO 法人 natural science	協力	
共催	日本科学オリンピック委員会, JPhO		
協賛			
概要			
<p>仙台市の NPO 法人 natural science が企画した「学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ」が東北大学川内キャンパスで開かれ、物理オリンピックも日本科学オリンピック委員会が出展する企画に例年通り参加しました。</p> <p>国際物理オリンピック (IPhO) と物理チャレンジの紹介とともに、2023 年 IPhO と 2024 年物理チャレンジの実験の一部にチャレンジしてもらいました。</p>			
参加者 教員	生徒	保護者	
オープン企画なので不明	約 50 名	約 50 名	

学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ (<https://www.science-day.com/>) は 2007 年から始まっており、科学や技術の"プロセス"を子どもから大人まで五感で感じられる場づくりを目指した日本でも有数の規模の科学イベントです。物理チャレンジの企画は今年 5 月にお亡くなりになった近藤泰洋先生が 2014 年から始められました。その後、数学や他の科目が加わり、現在は JST 日本科学オリンピック委員会が主体となって出展しています。今年は物理、数学、化学、生物、地学、地理が合同で行い、一つの教室に各科目のブースを設置しました。

サイエンス・デイ全体の参加者は 1 万人を超えており、科学オリンピックの教室には常に 10～50 名の参加者が訪れていました。物理のブースにも多くの方が関心を持ってくれました。参加者は小学生とその保護者が中心ですが、高校生・中学生の訪問者のほとんどは下記の実験にチャレンジしてくれました。

物理のブースでは 2023 年 IPhO の実験問題 1 「質量測定」と 2024 年物理チャレンジの実験問題 3 「光弾性効果による歪みの可視化」を机の上に並べ、実験の一部を体験してもらいました。特に質量測定では、キップル天びんの原理による測定と電卓を使った計算でおもりの重さを実際に求めることにチャレンジしてもらいました。動きのある実験と視覚的にわかりやすい実験を選んだので、多くの参加者に興味をもってもらうことができました。また、パネル展示として物理チャレンジと IPhO2023 日本大会の概要、および、実験問題が作られた背景や本番での実験内容の紹介をしました。

他の科目では、実際に科学オリンピックに参加した OP が自分の体験談を交えた紹介を行っていました。また、ゲーム形式で参加者にチャレンジしてもらう企画もありました。

来年も「サイエンス・デイ」は開催予定ですので、OP の参加可能性を含めてさらに企画を充実できるようにしたいと考えています。また、サイエンス・デイの大きな特徴である AWORD の贈呈も検討したいと思います。

物理チャレンジのブース（準備状況）



参加者が実験に取り組んでいる様子

